

SIT+AIT+KU+KMUTT+SUT+NTU gPBL :
各国における土木工学の期待と役割に関するワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2025年2月24日 ～2025年3月5日	日本	芝浦工業大学 アジア工科大学院大学 カセサート大学 モンクット王工科大学 トンブリー校 スラナリー工科大学 国立台湾大学	・土木工学科、 社会基盤学専攻 ・学部1年生、 学部2年生、 学部3年生、 学部4年生、 修士1年生、 修士2年生	【芝浦工業大学】 学生35名、学生バイト13 名、教員1名、職員1名 【アジア工科大学院大学】 学生22名、教員2名、職員 1名 【カセサート大学】 学生42名、教員3名、職員2 名 【モンクット王工科大学ト ンブリー校】 学生20名、教員1名 【スラナリー工科大学】 学生5名、教員1名 【国立台湾大学】 学生11名、教員3名、職員3 名 ※計165名	稲積真哉 (土木工学課程)



図1 集合写真

芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて、「各国における土木工学の期待と役割」をテーマとしたグローバルPBLを開催した。本プログラムでは、土木工学が「市民工学」としての性質を持ち、国や地域の国土、環境、文化によって異なる役割を果たすことを前提に、各国における土木工学の理想像や将来の姿を共に創造することを目的とした。

本プログラムには、芝浦工業大学の土木系学生48名（TA学生含む）をはじめ、アジア各国からの学生が集結した。具体的には、アジア工科大学院（AIT）から22名、カセサート大学（KU）から42名、モンクット王工科大学トンブリー校（KMUTT）から20名、スラナリー工科大学（SUT）から5名、国立台湾大学（NTU）から11名の土木系学生が参加し、引率教職員を含む総勢165名の多国籍チームが結成された。異なる国や文化背景を持つ参加者が共同でプロジェクトに取り組むことで、技術的知見の共有のみならず、文化的交流を深める機会となった。

グローバルPBLの期間中、参加者には異文化体験の機会が提供された。浴衣ワークショップでは、日本の伝統衣装を通じて国際交流が促進され、異なる文化の理解を深める契機となった。このような文化交流は、技術的な議論だけでなく、円滑なコミュニケーションの構築にも寄与した。

また、特別講演では、各国における土木工学の期待と役割に関する理解を深める内容が提供された。災害に強いインフラの設計や持続可能な都市づくりに向けた新たなアプローチが紹介され、特に気候変動に対応したインフラ整備の必要性が強調された。これにより、学生たちは理論的知識だけでなく、実務的な視点を学び、土木工学が果たすべき役割についての認識を深めた。

さらに、参加者165名のグループに分かれ、「各国における土木工学の期待と役割」をテーマに討議を行った。各グループは、日本、タイ、台湾などにおける土木工学の必要性について議論し、それぞれの技術的知見を持ち寄りながら、多様な視点を統合した。この討議を通じて、各国の技術的相違を理解し、異なるアプローチを融合させる能力を養うことができた。

最終発表会では、各グループが学んだ成果をもとに、独自のアイデアや解決策を提案した。アジア全体におけるインフラの相互連携や災害対策の強化に関する提案が多く見られ、参加者全員がアジア地域のインフラ強靱性と持続可能性の重要性について理解を深める機会となった。学生たちは、自国の技術や知識を他国の参加者と共有し、新たな学びを得たことで、国際的な協力の重要性を再認識した。

今回のグローバルPBLは、技術的知識の共有にとどまらず、異なる国や文化背景を持つ参加者同士が協働し、国際的な課題に対する新たな視点を得るための貴重な機会となった。参加者は、土木工学が果たすべき社会的役割を多角的に考察し、アジア地域におけるインフラの強靱性と持続可能性の重要性を再確認した。この経験を通じて、今後の学びやキャリアに活かすことが期待される。



図2 聴講中の講師と学生



図3 グループ活動の様子 (1)



図4 グループ活動の様子 (2)



図5 異文化交流の様子



図6 聴講中の学生と講師



図7 最終発表中の学生